

保護者様各位

横浜市立桂小学校
校長 本田 正道

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果について

(6年生:4月17日実施)

○調査内容

① 教科に関する調査(国語・算数・理科)【理科はABに分かれていない】

A(主として「知識」に関する問題)

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

B(主として「活用」に関する問題)

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

②生活習慣や学習環境等に関する質問調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○平均正答率

	国語A(知識)	国語B(活用)	算数A(知識)	算数B(活用)	理科
桂小学校6年生	80	62	73	65	64
横浜市との差	+7	+6	+7	+9	+3
横浜市	73	56	66	54	61
神奈川県	70	54	64	52	60
全国	71	55	64	52	60

※文部科学省と同様に平均正答率は整数値(%)で表しています。

- ・国語、算数共に全国、神奈川、横浜の平均正答率を6~9ポイントほど上回っている。
- ・国語Aでは、言語についての知識・理解・技能および読む能力についての平均正答率が高いが、話す・聞く能力および書く能力については、ほぼ全国・神奈川の平均正答率と同水準である。
- ・理科では、知識理解や技能の観点に比べて、思考・表現の問題の正答率が低い。

○生活習慣・学習習慣について(質問紙調査結果より)

	本校	神奈川県(公立)	全国(公立)
家で、学校の授業の予習復習をしている。(【どちらかといえば、している】含む)	44.6	55.2	62.6
学校の授業時間以外での普段(月曜日から金曜日)の一日の勉強時間が3時間以上	38.5	19.0	12.5

放課後に塾など学校や家以外の場所で勉強していることが多い	56.9	42.3	32.2
放課後、家でテレビやゲーム、インターネットをして過ごしていることが多い	66.2	79.4	81.0
週末、習い事（スポーツに関するものを除く）をしていることが多い	35.4	27.0	25.7
新聞をほぼ毎日読んでいる	20.0	7.9	7.4
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている（上段）していない（下段）	49.2	44.8	43.7
	9.2	4.7	4.5
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えるようにしている（上段）していない（下段）	53.8	43.6	43.6
	9.2	4.1	3.8
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを伝えたり、広げたりすることができる	41.5	34.4	34.7

%で表示

- ・家で学校の授業の予習・復習をしている児童は、全国・神奈川の平均に比べ、少ない。
- ・塾や家庭教師などで放課後に勉強している児童は、全国・神奈川の平均に比べ、多い。
- ・平日、休日ともに、家でテレビやゲーム等をして過ごす時間が全国・神奈川の平均よりも短く、習い事・塾で過ごす時間が長い傾向にある。
- ・算数の授業で公式やきまりのわけを理解したり理科の授業で結果から分かったことを考えたりするようにしている児童が全国・神奈川の平均より多いが、していないと答えた児童も全国・神奈川の平均より多い。
- ・話し合い活動の中で自分の考えを伝えたり、広げたりすることができる児童が平均より多い。

○生活習慣と学力の相関について

- ・調査結果に対する全国・及び横浜市の分析によると、「新聞を読んでいる」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを伝えたり、広げたりすることができる」と回答した児童の正答率が高いことが分かった。

○授業改善に向けて

- ・学習塾などで勉強している児童の数が多いたことが全国・神奈川の正答率の平均を超えていることにつながっていると考えられるが、学校の授業の予習・復習を行っている割合は全国・神奈川の平均より少ないことから、宿題などで家庭学習の習慣をつけることでさらなる学力を身に着けることができると考えられる。
- ・今年度は理科の調査を実施し、質問紙調査も理科・算数に寄せた形で行われている。その結果、理科や算数に関して、積極的に学ぼうとする姿勢が見られると正答率が高くなる傾向が見られた。今後は理科の実験や観察から、普段の生活に活用できることを探したり考えを周りの人に説明したりする活動を重視し、算数の公式やきまりについてわけを理解できるような授業をしていくことが求められる